

緑の相談所だより

—第24号—

{10.11月号 ~1993.9.30~ 発行・編集 旭川市緑の相談所}

講習会

冬の室内園芸

室内環境、園芸の基本的な知識、用土や肥料について。

日時：10月10日（日）午後1～3時

講師：北海道旭川農業高等学校教諭

岡田 正裕 氏

定員→50名

冬に向かったの鉢物管理のポイント

温度、湿度、水やり、肥料などほか。

日時：10月24日（日）午後1～3時

講師：旭川市緑の相談所相談員

村田 正一

定員→50名



秋の剪定と冬囲い

フジの剪定、ツツジ、松類の冬囲い。

日時：11月14日（日）午後1～3時

講師：旭川市緑の相談所相談員

小島 博昭

定員→60名

冬咲きの鉢花、管理のコツ

シラネ、アザミ、カムラ、秋ハナ、ベコヤ などほか

日時：11月28日（日）午後1～3時

講師：旭川市緑の相談所相談員

村田 正一

定員→50名

参加料——いずれも無料

お申込み・お問い合わせ 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

おもと（万年青）の展示会のお知らせ

日時 10月14、15、16、17日（4日間） 午前9時～午後5時

※期間中はおもと会員が植替及び育て方の指導を致します。

季節の花

ことば

まゆみ

・・・あなたの魅力を心にきざむ・・・

初夏の頃、淡緑色の小さな花をひそやかに咲かせますが、それが秋になるといつの間にか散って、美しい実をぶら下げようにつけています。この赤い実はまるみを帯び、熟して裂けると朱赤の種子をのぞかせます。

古代、弓を作るのによい木とされたことから「真弓」とも書きます。



ぶどうジュース

材 料

- ぶどう (キャンベル) 1kg
- 水 1カップ
- 砂糖 ぶどう汁の30~40%
- レモンのしぼり汁 1個分



ジュースやジャムに加工するにはキャンベルが最適。生では黒紫の暗い色ですが、美しい赤紫色に仕上がります。酸味や日さも強く、こくがあります。房がしっかりしていて、皮に張りがあるものを選びましょう。

月刊出版「お・かい・い・ま」より

下ごしらえ

枝から分離しながら洗う

↓

水けをきる

作り方

水 ↓

ぶどう

ほうろう鍋

中火

ぶどうが白っぽくなるまで煮る

カスをとる

自然に果汁を落とす

目の粗いざる

ふきん

☆絞らない

砂糖 30~40%

↓

砂糖が溶けたら

レモン汁

保存

冷蔵庫で半年ほど保存できるよ

殺菌した瓶

1. 球根の掘り上げと保存

ダリヤー霜で枯れたら茎を切り取り、土をつけたまま掘りあげます。半日くらいざっと乾かし、土をつけたままビニール袋に入れてからダンボール箱に入れ、凍らない所に保存します。

グラジオラス=葉が黄色みを帯びたら掘りあげ、束ねてつるし乾燥します。すっかり乾いたら茎から球根をはずし、紙袋か網袋に入れ、低温で保存します。

カンナ=初霜の前に土ごと掘りあげ鉢に植え込みます。そのまま室内で育てておきます。

2. 秋植え球根の植えつけ

秋植え球根にはチューリップ、スイセン、ヒヤシンス、クロッカス、ユリ、球根アイリスなどのいろいろあります。これらは10月中に植え込みましょう。

植え床は球根の高さの5～6倍の深さに耕します。耕すとき、堆肥、バーク堆肥、ピートモス、腐葉土のいずれかをたっぷりと混ぜます。同時に化成肥料も適量混ぜておきましょう。

球根の植えつけの深さは球根の高さの3倍くらい、間隔は球根の直径の4倍くらいがいいでしょう。

ユリは10月下旬、球根の高さの4～5倍の深さに植えてください。球根は乾かさないう気をつけます。庭に植えてあるものを移植する場合、掘りあげたらすぐに植えましょう。

3. シクラメン=室内に取り込むと葉が黄変することがあります。日光の当たる暖房のない所に置き、3～4日おきに殺菌剤のベンレートをかけてください。乾いたらたっぷり水をやり、肥料も週1回千倍の液肥をさらさないよう施してやりましょう。

1. クンシラン=今のうちに10度前後の温度に半月くらいは合わせておきましょう。低温の刺激を受けていないと花茎が伸びずに咲いてしまいます。

2. アマリリス=球根を凍らせないように注意しましょう。葉が黄色くなった株は水やりを止め、暖房のない部屋に置きます。葉が1～2枚でも元気なものは居間などに置き、乾いたらたっぷり水やりと週1回千倍の液肥も与えます。

3. グロキシニヤ=夏が過ぎると次第に元気がなくなります。水やりを中止して休眠させます。やがて球根から茎が取れますから、鉢ごとビニール袋に入れて春まで保存します。

4. アザレア=すでに蕾が大きくなっているはずですが。居間のような温かい部屋にいと花がうまく咲きません。玄関などの暖房のない所でゆっくり育てましょう。水をよく吸いますから乾ききらないうちに水やりします。蕾のふくらみが目立ってきたら週1回、千五百倍の液肥を施します。

5. コーヒーノキ=葉がきれいなので観葉植物として育てる人が多くなりました。暖房が入ると湿度(空気の湿りけ)がひくくなるので葉の緑の枯れが目立ちます。カリ分の多いハイポネックス微粉の千倍液を週1回、十分与えて葉を固くしておきましょう。水もよく吸いますからたっぷりと与えます。室内ではなるべく日光によく当ててやりましょう。

6. シャコバサボテン=少々デリケートなところがあり、環境が急に変わったり、温度の高過ぎ、土の湿りすぎの場合蕾が落ちてしまいます。

蕾が小さい時ほど落ちやすいものです。1センチくらいの大きさになるまでなるべく場所を変えないよう気をつけましょう。

冬囲い

冬囲いは庭木類をいためないためにも大切な作業の一つですが、必要以上の過度な冬囲いや、温度の高い時期（2桁台の温度の時期）の冬囲いは良い結果をもたらすことにはなりませんので（過度な冬囲いはムレにつながる）次の事柄に注意しながら冬囲いをするようにして下さい。

冬囲いの時期

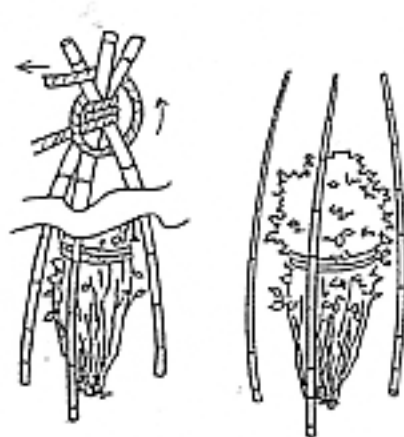
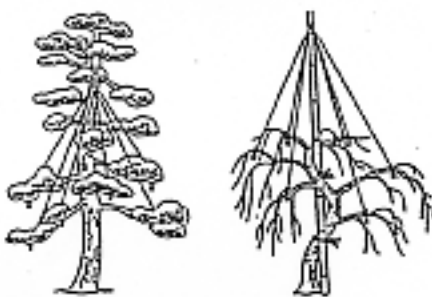
10月に入ると温度も下降線をたどり、平野部での紅葉（黄葉）も終りをつけ寒風が吹きだす10月下旬～11月上旬頃になると霜柱が目につきます。この頃から冬囲いを始め雪がくる迄に終わらせるようにします。

雪害から樹木類を守るための幹吊り（枝吊り）は早めに作業しても問題はありませんが低木類、灌木類の枝まとめの冬囲いは完全に落葉するおそい時期に作業することが大切です。

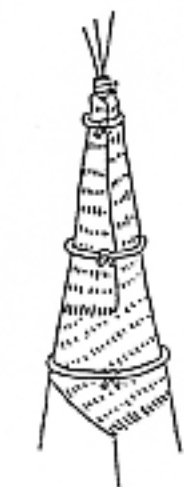
冬囲いの方法

冬囲いの方法としては、特にきまった方法はないのですが

- ◎木の枝を雪害から守るための幹吊り（枝吊り）
- ◎低木類、灌木類を雪折れから守るための枝まとめ



- ◎落雪による幹折れ、枝折れの被害から守るための冬囲い



- ◎寒さの害から守るための冬囲い



などがありますが、冬囲いには画一的なものはありませんが、一般的な冬囲いの方
法としては図の通りですので、冬囲いの参考にされると良いと思います。